

# 文部科学省から「優れた環境教育校」に選ばれました

千葉商科大学(CUC)は、昨年、文部科学省から特色GP(=優れた大学教育を実施している学校)に選ばれました。採択されたテーマは「大学の社会的責任としての環境教育の展開」です。CUCは、千葉県の大学としては最初に国際環境規格、ISO14001(環境マネジメントシステム)を取得しました。さらに取得に当たっては、学生が中心になって大学側に働きかけ、学生と大学側が緊密なコラボレーション(協働)を組んで取得しました。このように学生主導の取得という点では、短大を含め全国に1200校近くある大学の中でも初めての試みです。



三橋 規宏  
政策情報学部教授

慶応義塾大学経済学部卒業後、日本経済新聞社に入社。ロンドン支局長、論説副主幹などを経て2000年4月より現職。国連大学が提唱したゼロエミッション運動の推進者の一人として活躍、2001年4月に第1回ゼロエミッション賞を受賞するなど環境問題のオーソリティーであり、世界的な環境リーダーとの交流も深い。

特色GPとは?

特色GP (GP=Good Practice) とは、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」の略称です。特色ある優れた大学教育を支援するため、文化省が補助金を出し、さらに充実した大学教育の展開をサポートするプログラムです。2005年度の特色GPには全国の大学から410校が応募し、47校が採択されました。10倍近くの難関でした。総合教育部門で環境教育が採択されたのはCUCだけでした。特色GP採択校には、4年間補助金が支給されます。

## I 三位一体型の実践的環境教育の展開

CUCの環境教育の取り組みは、図1に示してあります。この取り組みのことを三位一体型の実践的環境教育と名づけています。大学が環境教育を実施する目的は、環境マインドを持った学生を一人でも多く育て、社会に送り出し、将来社会の環境負荷を軽減させるためです。そのための環境教育は教室の中だけでは得られません。

たとえば、電車の中で、ペットボトルや空き缶が転がっているのを見つけたとします。周囲の目など気にせずそれを拾い、下車駅で分別箱に入れることが自然にできるような学生に育てたいと願っています。

三位一体型の実践的環境教育とは、1.基礎的環境知識の習得、2.実践活動の展開、3.報告書の作成とホームページへの掲載——の3つを一体化した教育のことです。

### 1.基礎的環境知識の養成

学生が環境問題に取り組むためには、基礎的な環境知識を身に付けなければなりません。そのためにCUCでは環境関連講座の充実、拡大を図っています。この2年だけでも、環境産業論、新エネルギー論、環境教育論、環境政策論、環境経済論など

が開設されました。

### 2.学生による実践活動の展開

環境知識を学んだ学生は、それを身近な現場で実践することが大切です。ISO14001の取得に始まり、灰皿のフラスターポット化運動、地元小中学校への環境教育の実施など。(学生活動の具体的な取り組みは4ページ以降で紹介します)。

### 3.報告書の作成とホームページへの掲載

学生の様々な取り組みは、かならず報告書にまとめ、それを環境ISO学生会議のホームページに掲載し、公開するようにしています。全国の大学の中でも、これだけ生き生きとしているホームページを持っているところは少ないでしょう。

## II 説明側に立つことで、学生は大きく成長する

三位一体型の実践的環境教育の結果、CUCの学生は、環境ISOの講演やシンポジウムに招かれることが増えました。その結果、聞く側から説明する側に回るケースが圧倒的に増えました。説明する側に回ることで、学生の能力は飛躍的に向上します。

学生自身が新しい問題群を発見し、その原因究明、解決のための処方箋の研究などに取り組むことで、大学がとても元気になりました。

## III 特色GPプロジェクトの展開

特色GPの採択を受けて、これからCUCらしい様々な環境教育関連のプロジェクトを展開していきます。

まず、特色GPプロジェクト事務局長の松尾寿裕さん(政策情報学専攻1年)に今後のプロジェクトの展開について語ってもらいました。

次に、新しく制作したシンボルマークについて、製作者である中国・上海からの留学生、蔣海倫さん(政策情報学科4年生)に語ってもらいました。

# 特色GPプロジェクトの展開

—大学の社会的責任としての環境教育の展開—



特色GPプロジェクト事務局長

松尾 寿裕  
大学院政策情報学専攻1年

中国の環境教育はどうなっているのか?

今世紀最大の環境破壊が予想される中国の小中学生への環境教育のための資料を作成します。中国の環境事情の把握、中国政府の小中学生への環境教育要綱や実態は、研究が不足していて困難ですが、環境教育の実態と問題点の調査を行い、望ましい環境教育のマニュアルの提供をする予定です。

「環境が大学を元気にする」ネットワーク

地元小中学校の環境樹ネットワークと環境に熱心な大学の環境情報についてのネットワークを構築します。また、環境配慮促進法の施行を受け、環境報告書の作成を義務付けられた大学、特色GP採択校、環境ISO取得校など、環境教育のネットワークの中心になるべく「環境が大学を元気にする」という統一テーマのシンポジウムを年2回実施します。

体験する環境教育プログラムの開発

体験型環境教育とは、自然環境変化の実体験をとおして変化を予測することやその原因を探ることに対する能力開発に力を注ぐものです。小学校から文系の大学生までを対象として、炭酸ガス濃度変化による赤外線吸収の割合を地球の模型を使って測定する温暖化のメカニズムの体験や、紫外線ランプを用いたオゾン層破壊をシミュレートなど、日本ではほとんど行われていない試みになると思います。

動くエコラボを準備中

地元の小中学校で環境教育を実施する出前講座の場合、様々な道具(ミニ地球、ソーラーカー、太陽光発電装置、風力発電など)を持ち込んで実験やデモンストレーションを行います。また、それらの道具を運搬する自動車を「動くエコラボ」と名づけ、バイオディーゼル、バイオアルコールなどの再生可能エネルギーの利用を検討しています。

環境教育講座を増強

特色GP特命教授による環境関連講座として、環境教育、資源論、環境マネジメント、環境会計、環境評価(アセスメント)、環境政策、新エネルギー論など、講座の増設を準備しています。また、環境審査員などのスペシャリスト育成を視野に入れ、環境審査員補などの資格取得支援コースを計画しています。

## Symbolmark



シンボルマークについて

親から子へ美しい地球を引き継ぎ、皆で支え合っていくことを表現しています。全体を地球、中央に太陽のエネルギー、森、山、川のきれいな自然を表し、両側で祖父母と父母の手が支え、子供の手が受け継ぎ、新芽が息吹く地球です。(蔣 海倫)



蔣 海倫  
政策情報学部政策情報学科4年



この特色GPへの活動に参加するチャンスを与えてくれた三橋先生に心からお礼申し上げます。入学からの4年間、たくさんの教職員の皆さまから大変お世話になりました。卒業前にこれまで培ってきた力を大学に報いることができ、とても嬉しく思います。これからもチャンスにチャレンジして頑張ります。

# [学生による実践活動]

## 環境ISO学生会議

千葉商科大学は、2003年3月31日、ISO14001を認証取得しました。環境ISO学生会議はISO14001の取得に関して学生も積極的に関与し、環境をよくしていこうとする学生を中心に構成された団体です。ひとつのフィールドにとどまらない、さまざまな環境活動をしています。

### 愛・地球博

私は現地へ行き、実際に学生会議の活動等を説明する役割でした。特にミニ地球について年齢層ごとに説明の仕方を工夫することを心がけていました。初日はありきたりの事だけしか話すことが出来ませんでした。日が経つうちに工夫し説明することが出来たと思います。この経験を生かし今後の活動へつなげていきたいと思っています。

**【イベントデータ】**  
 期間 ● 2005年3月25日～9月25日  
 (出展期間9月5日～11日)  
 場所 ● 愛知県長久手町・豊田市・瀬戸市  
 (愛・地球博 長久手会場 地球市民村 損保ジャパン おさんぽジャパンブース)  
 来場者 ● 22049544人(ブースに来てくださった方3日間で1000人前後)  
 活動の目的 ● 大学生が行っている環境教育を知ってもらう  
 実施内容 ● 千葉商科大学の紹介や環境ISO学生会議の活動内容を紹介します。また、環境教育で行っているミニ地球の仕事を体験してもらった。



内田 雄介 経済学部 経済学科 2年

### ワークショップ

今までいろいろな大学と交流がありましたが、いつも呼ばれて行くばかりだったので、初めて、環境ISO学生会議主催でイベントを開催しました。当時まで、試行錯誤でした。イベントを起こすことで、大学、地域の方々、他大学との連携がとても難しい事を改めて感じました。この経験を今後に活かしたいと思います。

**【イベントデータ】**  
 期間 ● 2005年12月3日  
 場所 ● 千葉商科大学 瑞穂会館  
 来場者 ● 15人(一般参加者)+学生会議20名  
 活動の目的 ● 他大学との交流  
 実施内容 ● 大学と地域との関わり方、活動を行ううえで学生をどう巻き込んでいくか、学生活動の継続をワークショップ形式で話し合い、その後ディスカッションを行った。



紀 奈南 政策情報学部 政策情報学科 3年

### エコプロダクツ

エコプロダクツ2005では今までの活動の発表というかたちで、ブース出展やプレゼン・社会科見学で小学生を受け入れ環境教育の体験学習を行いました。

参加したことにより、外部からの反応を直接感じることができ、また他者の環境活動を知ること、交流を図ることは今後の活動にも役立ち良い影響になればと思います。

**【イベントデータ】**  
 期間 ● 2005年12月15日～17日  
 場所 ● 東京国際展示場  
 来場者 ● 140461人(ブースに来てくださった方は100名前後)  
 活動の目的 ● 環境教育を知ってもらう。個人の環境意識の視点を知る。  
 実施内容 ● 環境教育で行っている模擬授業の教材を作ることを体験してもらった。



加藤 朋美 政策情報学部 政策情報学科 2年

### Column

#### CUC型のESCO契約とは (活動費の調達)

ESCO(エスコ)とは、英語の「Energy Service Company」の頭文字をとったもので、「エネルギーサービス会社」のことです。ESCO(会社)が、ある企業などと契約し、省エネを達成した場合、一部を報酬として受け取るビジネス契約です。CUCでは、環境ISO取得後、学生が中心となり、エレベータを使わず階段を歩く運動、授業後の教室の消灯の徹底、エアコンの温度調整などに取り組み、電気代だけでも年間2300万円強の節約を達成しました。節約できた電気代の一部は、学生会議の活動費に充てることを大学側が受け入れており、エコキャンパスづくりの学生の活動費をESCO契約で賄う試みを行っています。



本学の環境教育は、「大学と学生の徹底したコラボレーション(協働)」に特徴があります。学生は環境問題に関心を抱き、自分に何が出来るか、環境マインドを持った学生達が学内外でさまざまな活躍をしています。

## 環境インターンシップ・プログラム

インターンシップとは、実際の会社や団体・組織の中で、現実の業務を体験する研修制度です。政策情報学部の環境インターンシップ・プログラムでは、NPO、NGO、企業などの環境部門などで約半年の期間、現実的な諸問題を体験します。

### インターンシップ活動報告①

①インターン先  
**NPO法人 新宿環境活動ネット**  
 ②期間  
**2004年7月～2005年2月**

山川 大輔  
 政策情報学部 政策情報学科 4年

私のインターン活動を受け入れてくださったのは、NPO法人新宿環境活動ネットです。

新宿環境活動ネットは、市民・市民グループ・NPOだけでなく、多くの環境

配慮企業や企業人、行政職員の参加が大きな特徴です。

また、新宿環境活動ネットは新宿区立環境学習情報センターの指定管理者として、新宿区に代わって施設の管理・運営を行っています。インターン活動もこの施設を中心に展開しました。

幸か不幸か、新宿環境活動ネットは非常に人員が不足しており、学生である私も戦力として扱われました。裏方で事業を支えることはもちろん、最前線に送り込まれる事も数多くありました。一般企業でのインターン活動にありがちな「お客様扱い」は全くありませんでした。



非営利であるためか、職員の方々はおおらかであり、非常に良い職場環境でした。

このインターン活動を通して、環境NPOの実態を感じ取ることができ、学校の授業だけでは得られない経験や知識を獲得できました。

### インターンシップ活動報告②

①インターン先  
**特定非営利活動法人 アサザ基金**  
 ②期間  
**2005年6月末～2006年1月末**

尾上 恵  
 政策情報学部 政策情報学科 3年

私は、損保ジャパン環境財団の「CSOラーニング制度」に応募し、茨城県の霞ヶ浦で自然再生事業を行う「NPO法人 アサザ基金」でインターンさせて頂ける事になりました。

アサザ基金では、NECとの協働事業「谷津田再生プロジェクト」に参加し、田んぼの草取り・稲刈り・脱穀などの体験をしました。

また、地元の小・中学生が育てた「アサザ」を霞ヶ浦に植え付けたり、霞ヶ浦にどんな生き物が生息しているのかを調べる事もしました。小・中学校に環境教育で出前授業に行き、学校にあるビオトープのメンテナンス作業と観察会、小学生と学校の近くにある谷津田に行き野外観察も一緒に行いました。また、魚類モニターや水



### web管理 大谷 直孝 商経学部 商学科 3年

環境ISO学生会議の活動を知って貰う上で、Webサイトは大きな意義を持っていると考えています。団体の外から来た方に誤った情報や悪い印象を与えてしまわないよう、Webサイトの管理には日々注意をしています。また、Webサイトの運営では環境ISO学生会議の他のメンバーからもアイデアや、「こんな内容のページを増やした方がいいんじゃないか」

### Column

というようなコンテンツの提案を買っています。三橋教授から寄せて頂いている「環境コラム」によって、環境に関するタイムリーな話題を掲載する事もできています。学生会議のメンバー達や教職員の方々との協力があるからこそ、継続的な管理が続けられていると感じています。